

## 第200回「地域の会」定例会資料〔前回定例会以降の動き〕

### 【不適合関係】

- ・ 1月17日 7号機非常用ディーゼル発電機（C）燃料移送ポンプ（屋外）のケーブル損傷の可能性について（公表区分：その他） [P. 2]
- ・ 1月31日 7号機中央制御室（非管理区域）におけるけが人の発生について（公表区分：Ⅲ） [P. 5]

### 【発電所に係る情報】

- ・ 1月9日 2019年度全戸訪問実施結果について [P. 7]
- ・ 1月23日 柏崎刈羽原子力発電所における安全対策の取り組み状況について [P. 9]
- ・ 1月23日 7号機原子炉建屋東側エリア（屋外）における油漏れの原因と対策について [P. 14]
- ・ 1月23日 7号機非常用ディーゼル発電機（C）燃料移送ポンプ（屋外）のケーブル損傷の可能性についての対応状況について [P. 15]

### 【その他】

- ・ 1月20日 新潟市内における「東京電力コミュニケーションブース」の開設について [P. 17]
- ・ 1月30日 2019年度第3四半期決算について [P. 18]
- ・ 2月3日 東京電力ホールディングス株式会社と国立大学法人長岡技術科学大学との防災・減災に関する共同研究プロジェクトの設立ならびに包括連携協定の締結について [P. 27]
- ・ 2月4日 第17回原子力改革監視委員会における当社ご説明内容について [P. 37]
- ・ 2月5日 コミュニケーション活動の報告と改善事項について（1月活動報告） [P. 46]

### 【福島の前進状況に関する主な情報】

- ・ 1月30日 福島第一原子力発電所の廃止措置等に向けた中長期ロードマップ前送状況（概要版） [別紙]

#### <参考>

当社原子力発電所の公表基準（平成15年11月策定）における不適合事象の公表区分について

区分Ⅰ	法律に基づく報告事象等の重要な事象
区分Ⅱ	運転保守管理上重要な事象
区分Ⅲ	運転保守管理情報の内、信頼性を確保する観点からすみやかに詳細を公表する事象
その他	上記以外の不適合事象

### 【柏崎刈羽原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合の開催状況】

- ・ 2月4日 原子力規制委員会第830回審査会合  
－第7号機の工事計画の審査について－

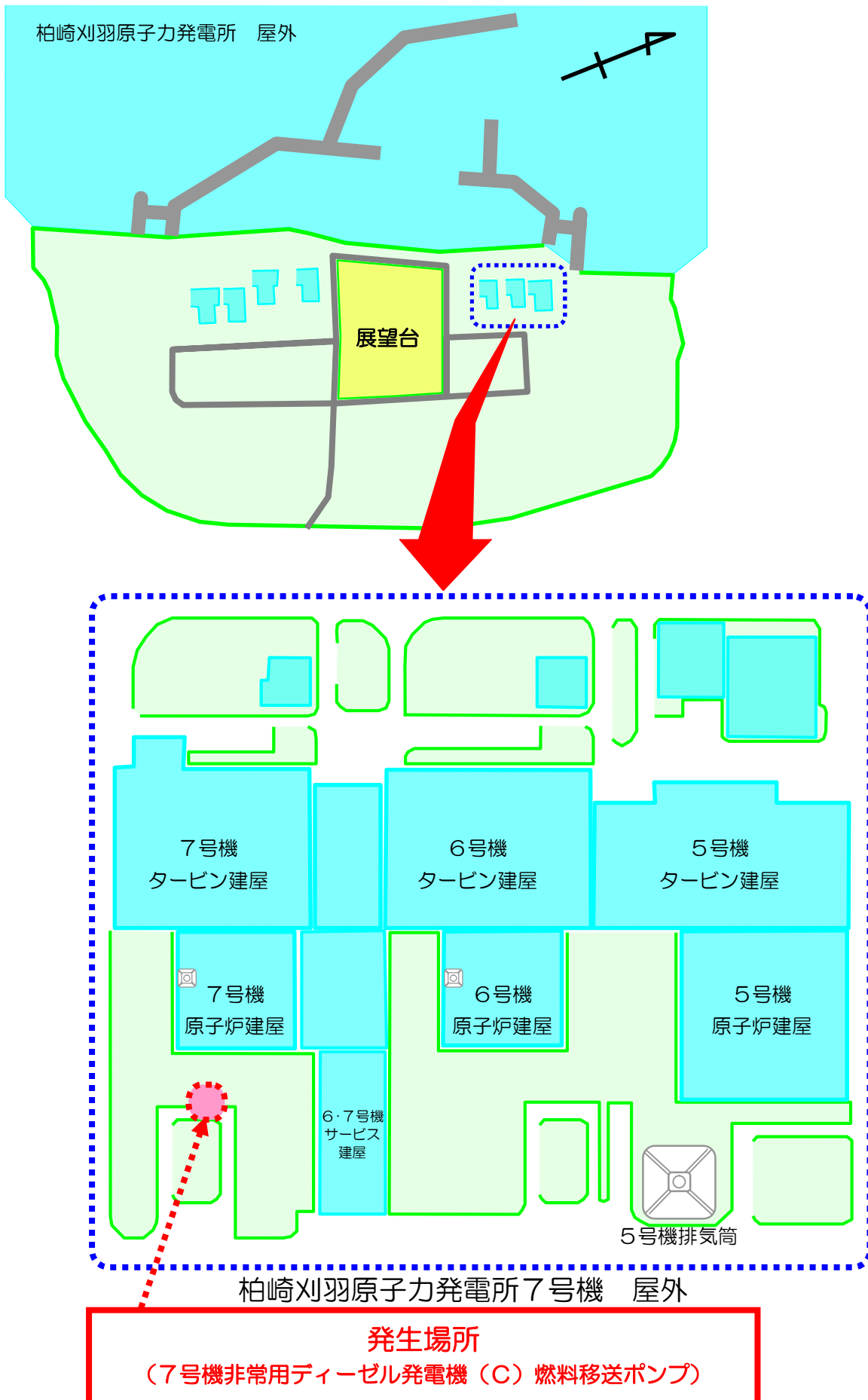
以上

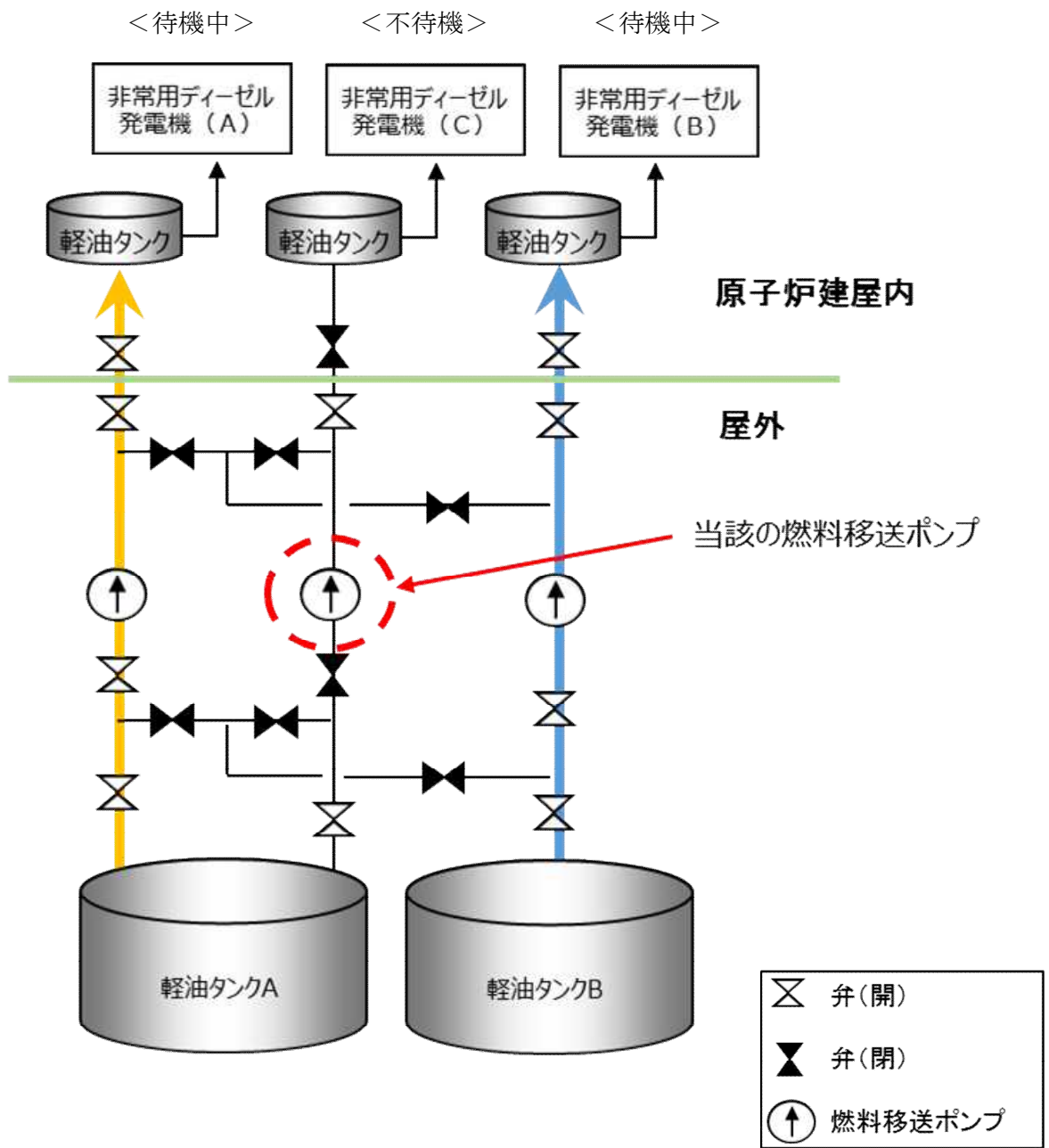
**区分：その他**

号機	7号機	
件名	非常用ディーゼル発電機（C）燃料移送ポンプ（屋外）のケーブル損傷の可能性について	
不適合の概要	<p>（発生状況）</p> <p>2020年1月17日、定期点検のために不待機としていた7号機非常用ディーゼル発電機（C）の燃料移送ポンプ*（屋外）を点検していたところ、ポンプに電気を供給するケーブルの絶縁不良が確認され、ケーブルが損傷している可能性があることが分かりました。</p> <p>なお、7号機以外の非常用ディーゼル発電機（A、B）が待機中のため、保安規定に基づく機能要求（プラント停止中は3台のうち2台が動作可能）は満足しています。</p> <p>今回の不具合による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>* 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ 非常用ディーゼル発電機の燃料である軽油を、屋外の軽油タンクから原子炉建屋内の軽油タンクへ移送するためのポンプ</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	<p>&lt;安全上の重要度&gt;</p> <p style="text-align: center;">○安全上重要な機器等 / その他設備</p>	<p>&lt;損傷の程度&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> 法令報告要</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・検討中</p>
対応状況	現在、当該のケーブルの損傷状況および、事象の発生原因を調査中です。	

# 添付①

7号機非常用ディーゼル発電機（C）燃料移送ポンプ（屋外）のケーブル損傷の可能性について



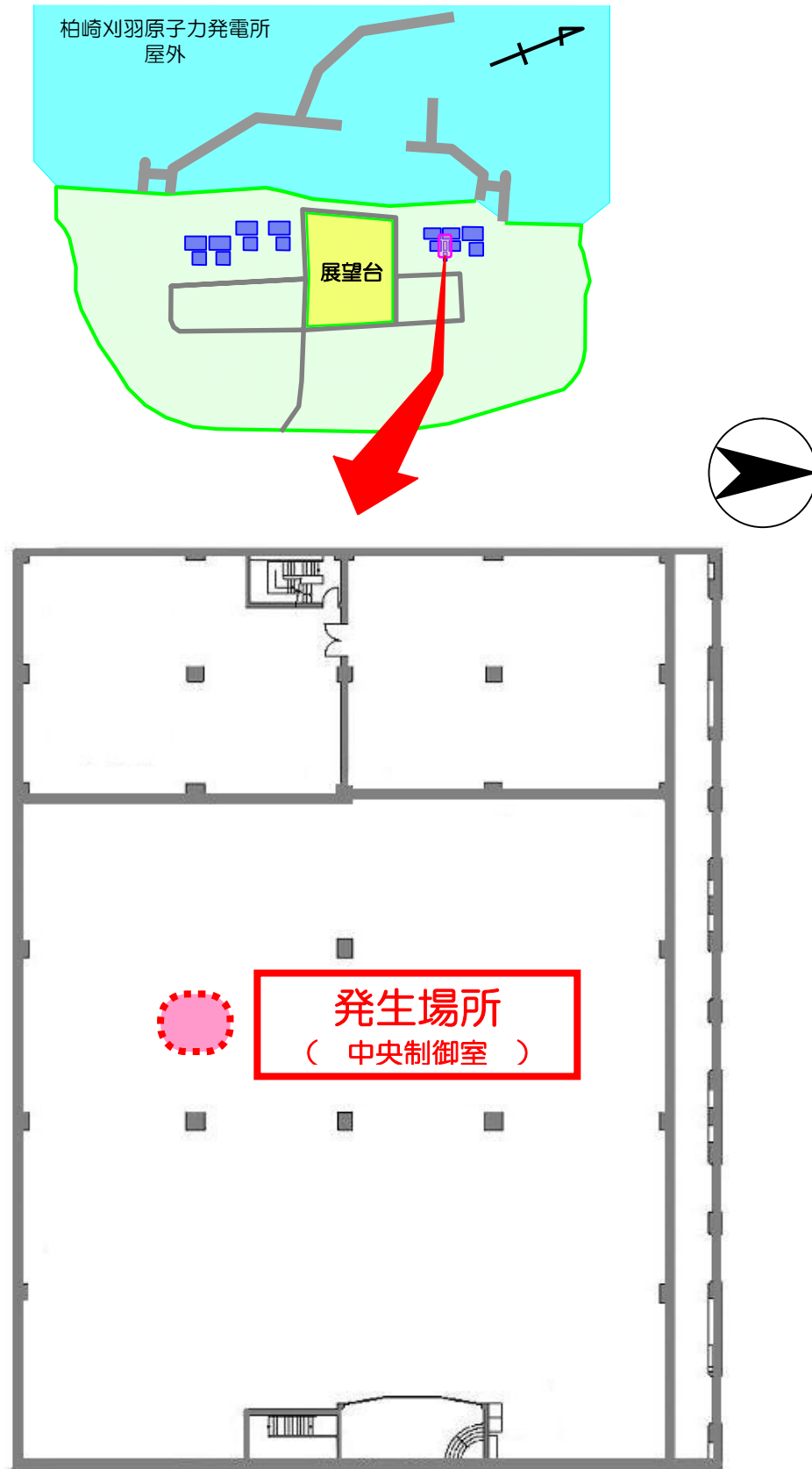


7号機 非常用ディーゼル発電機への燃料移送経路概要図  
 (非常用ディーゼル発電機 (C) 点検時の一般的な状況)

**区分：Ⅲ**

号機	7号機	
件名	中央制御室（非管理区域）におけるけが人の発生について	
不適合の概要	<p>2020年1月31日午前10時30分頃、7号機コントロール建屋2階中央制御室において、制御盤入替工事を実施していた協力企業作業員が、床面に膝をついた際に、床面に置いてあったニッパーにより左膝を負傷（約2センチの切り傷）したため、業務車にて病院へ搬送しました。</p> <p>なお、本人に意識はあり、身体汚染はありません。</p>	
安全上の重要度／損傷の程度	<p>&lt;安全上の重要度&gt;</p> <p>安全上重要な機器等 <u>その他</u></p>	<p>&lt;損傷の程度&gt;</p> <p><input type="checkbox"/> 法令報告要</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 法令報告不要</p> <p><input type="checkbox"/> 調査・検討中</p>
対応状況	<p>病院にて左膝の縫合処置（3針）を実施しております。</p> <p>今回の事例を踏まえ、発電所関係者に周知し注意喚起を行い、再発防止に努めてまいります。</p>	

7号機 中央制御室（非管理区域）におけるけが人の発生について



柏崎刈羽原子力発電所6/7号機 コントロール建屋 2階

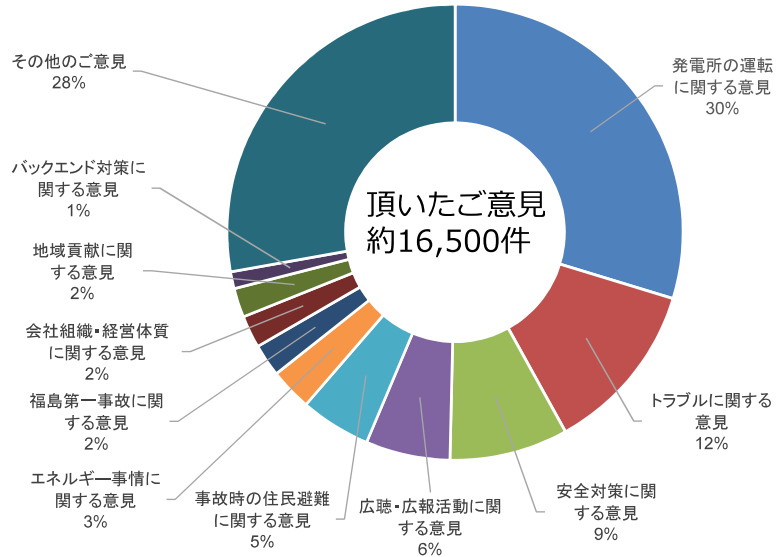
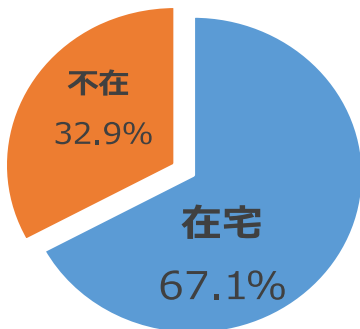
## 実施概要

- ◆ 一人でも多くの地域の皆さまとお会いし、発電所や当社に対する率直なお気持ちをお聞きするため、2019年8月28日より12月8日までの期間、柏崎市・刈羽村の全戸訪問を実施。
- ◆ 発電所全所員を含む当社社員（約1,200名）が、地域の皆さまのお気持ちに触れ、一人ひとりが感じとることを通じて、それらに私たちの業務がどのように関わっているのかを考え、社内外に伝えるべき事に自ら気づき判断するための意識、コミュニケーション能力を高める機会となった。

訪問者の問いかけ：

「柏崎刈羽原子力発電所や東電に対して何かご意見はありますか？」

訪問状況	
在宅	22,068
不在	10,728
合計 (訪問対象)	32,796



## お聞かせいただいた「声」（抜粋）

声の分類	内容
発電所の運転	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安全対策をしっかりとやって、地域活性化（地元経済・雇用）のため、発電所を早期に再稼働して欲しい。</li> <li>● 事故が怖い。事故のリスクをゼロに出来ないのであれば、廃炉にすべき。</li> <li>● 既に建設されている設備であり、安全を前提に有効活用すべき。</li> </ul>
トラブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CMでは色々宣伝しているがトラブルが多く、同じようなミスを繰り返している印象。改善できていないのではないかと。信用を損ないもったいない。</li> <li>● FAX誤記等の話を聞くと、普段の訓練が活かされていないと感じる。</li> <li>● 一般では些細なミスでも、原子力事業者であることを忘れず対応してほしい。</li> </ul>
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 安心して暮らせるよう、安全に、事故が無いようお願いしたい。</li> <li>● 安全対策は進んでいるようだが、それに対応する人を育てる事も大切である。</li> <li>● 最近の自然災害はこれまでの常識が通用しない。安全対策をしっかりとしてほしい。</li> </ul>
広報・公聴活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サービスホールのイベントに参加している。今後も良いイベントを開いてほしい。</li> <li>● 設備や安全対策の情報などは専門用語が多く難しい。分かりやすい情報発信をお願いしたい。</li> <li>● 久しぶりに構内を見学したが、様子が様変わりし、安全対策工事が進んでいることを実感した。</li> </ul>
事故時の住民避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事故時に避難出来るか不安。地域住民の大多数は避難計画について把握していないと思う。自治体との連携をしっかりとって欲しい。</li> </ul>
福島第一事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 福島第一事故のようになり、住めなくなることが怖い。</li> <li>● まずは福島第一の事故収束を優先すべきなのではないか。</li> </ul>
エネルギー事情	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 火力発電に依存する状態は地球環境を考えると良くない。</li> <li>● 温暖化対策に再生可能エネルギーを進めるべきだが、原子力の必要性も説明したほうが良い。</li> <li>● 原子力に頼ることなく再生可能エネルギーにシフトしてほしい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 原子力の難しいことはよく分からないが、事故だけはないようお願いしたい。</li> <li>● 千葉の状況が心配。2週間も電気を使えないのは苦しいし不便だ。ニュースで理解できているが、電力会社も頑張してほしい。</li> </ul>

# 訪問活動を実施した社員（発電所所員）の受け止め

## <全戸訪問を終えた発電所所員の受け止め>

- 全戸訪問に初めて参加したメンバーは約70%
- 全戸訪問を通して、「意識・認識を改める機会になった」との回答は約75%
- ⇒「立地する地域の方のご意見やお気持ちを、直接お会いして伺う（傾聴）事により、地域の方のご不安やご懸念を一人ひとりが感じとる機会」となっていると受け止めている社員が多い状況であることを確認

## <主な意見>

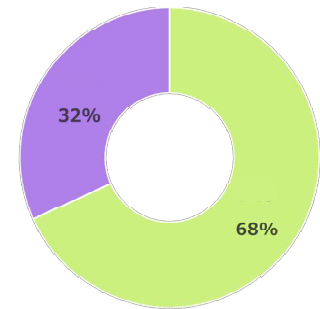
### 【意識・認識を改める機会になった】

- 原子力に限らず幅広い知識を身につけて、自分の対話力を高めたいという気持ちが芽生えた。
- 火災や通報ミス等で地域の方の信頼を失ってしまっていることを痛感した。
- 「この土地にずっと住みたい」という、当たり前のご意見として伺ったときは、我々が担う責任の重さを痛感した。
- 事故は心配だが、安全に進めてほしいと願っている方が多く、地域の方々のご期待にそえるよう業務に取り組みたいと感じた。

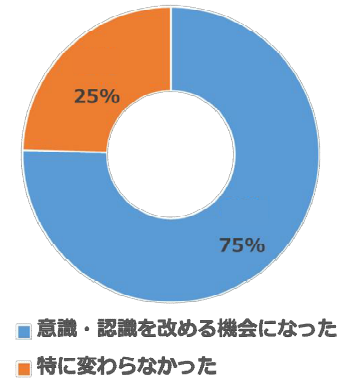
### 【特に変わらなかった】

- 普段から地域の方と十分接しており、その都度意見を聞いているため特段の変化はなかった。
- 過去、全戸訪問を経験したことがあり、同等のご意見をいただいたので、特に変化はなかった。
- 初めて全戸訪問に参加したが、留守のお宅が多く、地域の方々とあまりお会いすることが出来なかったため、特に意識の変化はなかった。

全戸訪問の経験



全戸訪問を終えての受け止め





# 柏崎刈羽原子力発電所における 安全対策の取り組み状況について

2020年1月23日

東京電力ホールディングス株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所



## 柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2020年1月22日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
<b>I. 耐震・対津波機能（強化される主な事項のみ記載）</b>		
<b>1. 基準津波により安全性が損なわれないこと</b>		
(1) 基準津波の評価	完了	
(2) 防潮堤の設置	完了	
(3) 原子炉建屋の水密扉化	完了	完了
(4) 津波監視カメラの設置	完了	
(5) 貯留堰の設置	完了	完了
(6) 重要機器室における常設排水ポンプの設置	完了	完了
<b>2. 津波防護施設等は高い耐震性を有すること</b>		
(1) 津波防護施設(防潮堤)等の耐震性確保	完了	完了
<b>3. 基準地震動策定のため地下構造を三次元的に把握すること</b>		
(1) 地震の揺れに関する3次元シミュレーションによる地下構造確認	完了	完了
<b>4. 安全上重要な建物等は活断層の露頭がない地盤に設置</b>		
(1) 敷地内断層の約20万年前以降の活動状況調査	完了	完了
<b>5. 耐震強化(地盤改良による液状化対策含む)</b>		
(1) 屋外設備・配管等の耐震評価・工事 (取水路、ガスタービン発電機、地上式フィルタベント等)	工事中	工事中
(2) 屋内設備・配管等の耐震評価・工事	工事中	工事中
<b>II. 重大事故を起こさないために設計で担保すべき機能(設計基準) (強化される主な事項のみ記載)</b>		
<b>1. 火山、竜巻、外部火災等の自然現象により安全性が損なわれないこと</b>		
(1) 各種自然現象に対する安全上重要な施設の機能の健全性評価・工事	工事中	工事中
(2) 防火帯の設置	完了	
<b>2. 内部溢水により安全性が損なわれないこと</b>		
(1) 溢水防止対策(水密扉化、壁貫通部の止水処置等)	工事中	工事中

□:検討中、設計中 □:工事中 □:完了

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2020年1月22日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
3. 内部火災により安全性が損なわれないこと		
(1) 耐火障壁の設置等	工事中	工事中
4. 安全上重要な機能の信頼性確保		
(1) 重要な系統(非常用炉心冷却系等)は、配管も含めて系統単位で多重化もしくは多様化	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
(2) 重要配管の環境温度対策	設計中	工事中
5. 電気系統の信頼性確保		
(1) 発電所外部の電源系統多重化(3ルート5回線)	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
(2) 非常用ディーゼル発電機(D/G)燃料タンクの耐震性の確認	完了	完了
Ⅲ. 重大事故等に対処するために必要な機能		
1. 原子炉停止		
(1) 代替制御棒挿入機能	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
(2) 代替冷却材再循環ポンプ・トリップ機能	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
(3) ほう酸水注入系の設置	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
2. 原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧		
(1) 自動減圧機能の追加	完了	完了
(2) 予備ポンペ・バッテリーの配備	完了	完了
3. 原子炉注水		
3.1 原子炉高压時の原子炉注水		
(1) 高压代替注水系の設置	工事中	工事中
3.2 原子炉低压時の原子炉注水		
(1) 復水補給水系による代替原子炉注水手段の整備	完了	完了
(2) 原子炉建屋外部における接続口設置による原子炉注水手段の整備	完了	完了
(3) 消防車の高台配備	完了	

※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

2 / 8

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2020年1月22日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
4. 重大事故防止対策のための最終ヒートシンク確保		
(1) 代替水中ポンプおよび代替海水熱交換器設備の配備	完了	完了
(2) 耐圧強化バントによる大気への除熱手段を整備	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
5. 格納容器内雰囲気冷却・減圧・放射性物質低減		
(1) 復水補給水系による格納容器スプレイ手段の整備	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
6. 格納容器の過圧破損防止		
(1) フィルタバント設備(地上式)の設置	工事中	工事中
(2) 新除熱システム(代替循環冷却系)の設置	工事中	工事中
7. 格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却(ペDESTAL注水)		
(1) 復水補給水系によるペDESTAL(格納容器下部)注水手段の整備	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
(2) 原子炉建屋外部における接続口設置によるペDESTAL(格納容器下部)注水手段の整備	完了	完了
(3) コリウムシールドの設置	完了	完了
8. 格納容器内の水素爆発防止		
(1) 原子炉格納容器への窒素封入(不活性化)	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
9. 原子炉建屋等の水素爆発防止		
(1) 原子炉建屋水素処理設備の設置	完了	完了
(2) 原子炉建屋水素検知器の設置	完了	完了
10. 使用済燃料プールの冷却、遮へい、未臨界確保		
(1) 使用済燃料プールに対する外部における接続口およびスプレイ設備の設置	完了	完了

※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2020年1月22日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
11. 水源の確保		
(1) 貯水池の設置	完了	完了
(2) 重大事故時の海水利用(注水等)手段の整備	完了	完了
12. 電気供給		
(1) ガスタービン発電機(7号機脇)・電源車の配備	工事中	
(2) 緊急用電源盤の設置	完了	
(3) 緊急用電源盤から原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了
(4) 代替直流電源(バッテリー等)の配備	完了	完了
13. 中央制御室の環境改善		
(1) シビアアクシデント時の運転員被ばく線量低減対策(中央制御室ギャラリー室内の遮へい等)	工事中	
14. 緊急時対策所		
(1) 5号機における緊急時対策所の整備	工事中	
15. モニタリング		
(1) 常設モニタリングポスト専用電源の設置	完了	
(2) モニタリングカーの配備	完了	
16. 通信連絡		
(1) 通信設備の増強(衛星電話の設置等)	完了	
17. 敷地外への放射性物質の拡散抑制		
(1) 原子炉建屋外部からの注水設備(大容量放水設備等)の配備	完了	
(2) ブローアウトパネル遠隔操作化	設計中	設計中

4 / 8

柏崎刈羽原子力発電所における安全対策の実施状況

2020年1月22日現在

項目	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機
I. 防潮堤(堤防)の設置	完了 <sup>※3</sup>				完了		
II. 建屋等への浸水防止							
(1) 防潮壁の設置(防潮板含む)	完了	完了	完了	完了	海拔15m以下に開口部なし		
(2) 原子炉建屋等の水密厚化	完了	検討中	工事中	検討中	完了	完了	完了
(3) 熱交換器建屋の浸水防止対策	完了	完了	完了	完了	完了	-	
(4) 開閉所防潮壁の設置 <sup>※2</sup>	完了						
(5) 浸水防止対策の信頼性向上(内部溢水対策等)	工事中	検討中	工事中	検討中	工事中	工事中	工事中
III. 除熱・冷却機能の更なる強化等							
(1) 水源の設置	完了						
(2) 貯留堰の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(3) ガスタービン発電機・電源車の配備	完了					工事中	工事中
(4) -1 緊急用の高圧配電盤の設置	完了						
(4) -2 原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(5) 代替水中ポンプおよび代替海水熱交換器設備の配備	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(6) 高圧代替注水系の設置	工事中	検討中	検討中	検討中	工事中	工事中	工事中
(7) フィルタベント設備(地上式)の設置	工事中	検討中	検討中	検討中	工事中	工事中	工事中
(8) 原子炉建屋トップベント設備の設置 <sup>※2</sup>	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(9) 原子炉建屋水素処理設備の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(10) 格納容器頂部水張り設備の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(11) 環境モニタリング設備等の増強・モニタリングカーの増設	完了						
(12) 高台への緊急時用資機材倉庫の設置 <sup>※2</sup>	完了						
(13) 大湊側純水タンクの耐震強化 <sup>※2</sup>	-				完了		
(14) 大容量放水設備等の配備	完了						
(15) アクセス道路の多重化・道路の補強	完了				工事中		
(16) 免震重要棟の環境改善	工事中						
(17) 送電鉄塔基礎の補強 <sup>※2</sup> ・開閉所設備等の耐震強化工事 <sup>※2</sup>	完了						
(18) 津波監視カメラの設置	工事中				完了		
(19) コリウムシールドの設置	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中	完了	完了

※2 当社において自主的な取り組みとして実施している対策

※3 追加の対応について検討中

今後も、より一層の信頼性向上のための安全対策を実施してまいります。



<参考> 柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における主な自主的取り組みの対応状況

2020年1月22日現在

	対応状況	
	6号機	7号機
Ⅲ. 重大事故等に対処するために必要な機能		
6. 格納容器の過圧破損防止		
(1) フィルタベント設備(地下式)の設置	工事中	工事中
9. 原子炉建屋等の水素爆発防止		
(2) 格納容器頂部水張り設備の設置	完了	完了
(4) 原子炉建屋トップベント設備の設置	完了	完了
10. 使用済燃料プールの冷却、遮へい、未臨界確保		
(1) 復水補給水系による代替使用済燃料プール注水手段の整備	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応	既存設備 <sup>※1</sup> にて対応
11. 水源の確保		
(2) 大湊側純水タンクの耐震強化	完了	
12. 電気供給		
(1) ガスタービン発電機(荒浜側高台)・電源車の配備	完了	
(2) 緊急用電源盤の設置	完了	
(3) 緊急用電源盤から原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了
14. 緊急時対策所		
(1) 免震重要棟の設置	完了	
(2) シビアアクシデント時の所員被ばく線量低減対策(免震重要棟内の遮へい等)	工事中	

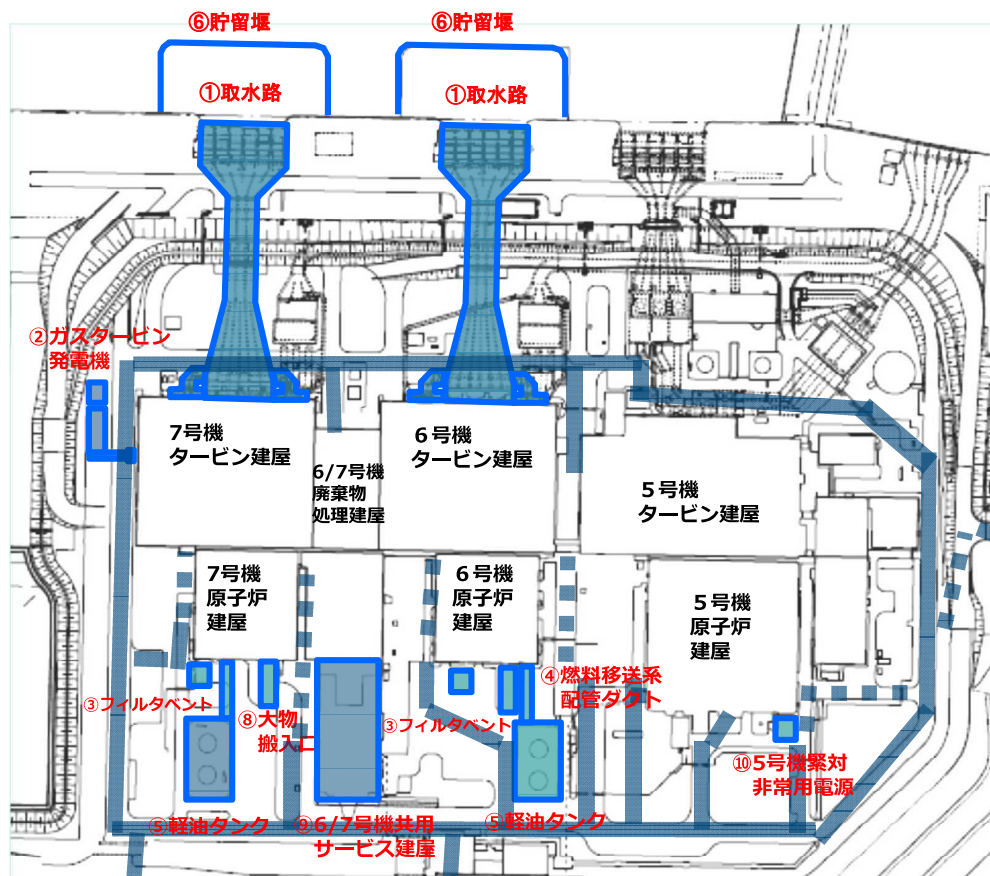
※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

6 / 8

## 液状化対策の取り組み状況について

2020年1月22日現在

対象設備	6号機	7号機
①6/7号機取水路	完了	完了
②ガスタービン発電機	完了	
③6/7号機フィルタベント	詳細設計中	工事中
④6/7号機燃料移送系配管ダクト	詳細設計中	工事中
⑤6/7号機軽油タンク基礎	工事中	工事中
⑥6/7号機海水貯留堰護岸接続部	完了	完了
⑦5/6/7号機アクセス道路の補強	工事中	
⑧6/7号機大物搬入口	詳細設計中	工事中
⑨6/7号機共用サービス建屋	工事中	
⑩5号機緊急時対策所非常用電源	詳細設計中	



- : ⑦ アクセス道路 (車両)
- ■ ■ : ⑦ アクセス道路 (徒歩)

アクセス道路について  
液状化工事に合わせ適宜  
実施する箇所あり

プレス公表（運転保守状況）

2020年1月23日

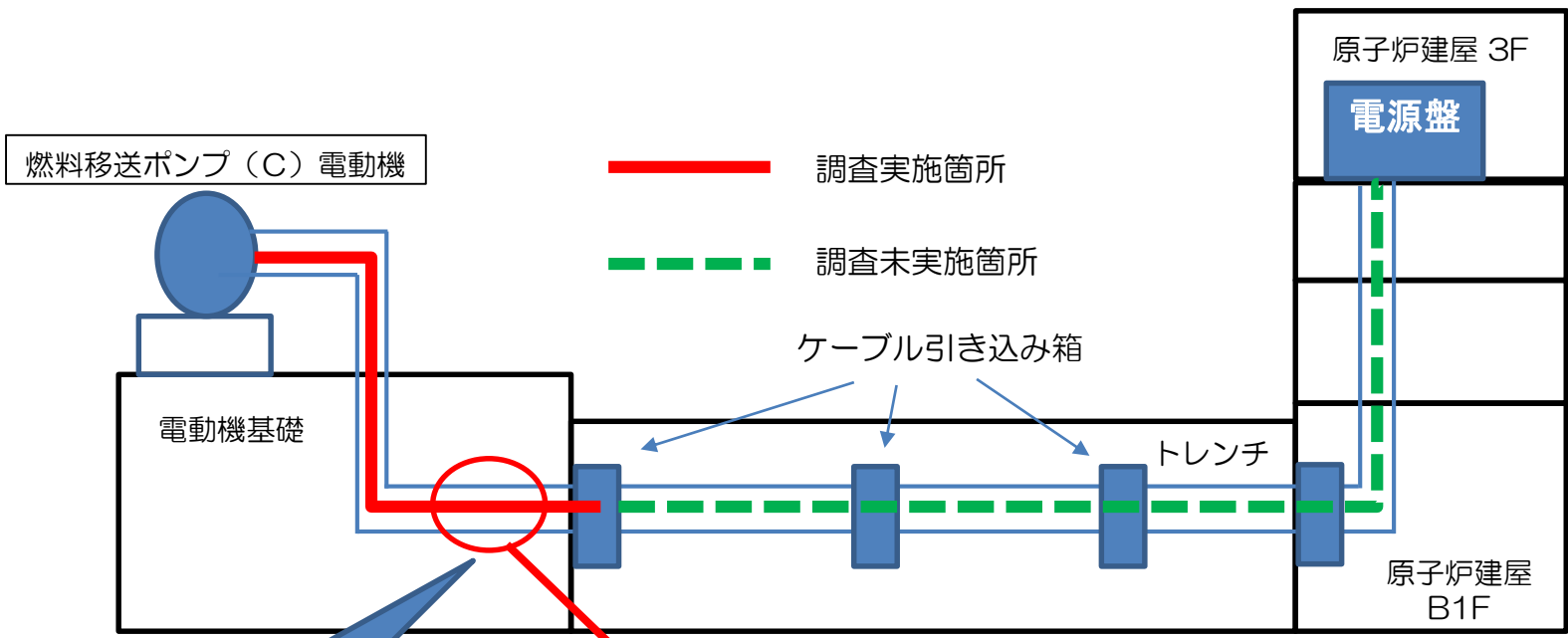
No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	2019年 11月15日 12月12日	7号機	原子炉建屋東側エリア（屋外）における油漏れについて（区分Ⅲ）	<p><b>【事象の発生】</b>                      2019年11月15日午前9時10分頃、7号機原子炉建屋東側エリア（屋外）において、発電機への給油をしていたタンクローリーの給油ホース付け根部より、軽油が漏れている（漏れ量は1リットル程度）との連絡を協力企業より受けました。そのため、公設消防に一般回線にて情報提供しております。                      午前10時50分、公設消防による現場確認の結果、本件は給油をしていた企業が所有する移動タンク貯蔵所※（タンクローリー）からの漏れいに該当すると判断されました。</p> <p>※移動タンク貯蔵所：車両に固定されたタンクで危険物を貯蔵、取り扱う施設で、一般的にはタンクローリーと呼ばれている。</p> <p>（安全性、外部への影響）                      漏れた油には放射性物質は含まれておらず、外部への放射能の影響はありません。                      また、漏れた油は作業エリアでとどまっております環境への影響はありません。</p> <p><b>【対応状況】</b>                      本事象について、現在再発防止対策を検討しております。</p> <p style="text-align: right;">（2019年12月12日までにお知らせ済み）</p> <p><b>【原因】</b>                      本事象については、給油会社が修理工場にて給油ホースの交換を依頼した際、給油ホース付け根部のナットの締め付けが不十分であったことが原因と推定しております。</p> <p><b>【再発防止対策】</b>                      給油会社が修理工場に給油ホースの交換等の修理を依頼して、修理したタンクローリーの引き渡しを受ける際に、給油ホース付け根部等のナットの状態が従前どおり十分に締め付けられていることをその場で確認します。                      また、当社および協力企業は発電所構内でタンクローリーから給油を受ける際、給油作業前に過去に発生した給油時の油漏れに関する事例を給油会社に周知し、再発防止に対する意識の定着に努めます。</p>

プレス公表（運転保守状況）

2020年1月23日

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
②	2020年 1月17日	7号機	非常用ディーゼル発電機（C）燃料移送ポンプ（屋外）のケーブル損傷の可能性について（区分：その他）	<p><b>【事象の発生】</b>                      2020年1月17日、定期点検のために不待機としていた7号機非常用ディーゼル発電機（C）の燃料移送ポンプ※（屋外）を点検していたところ、ポンプに電気を供給するケーブルの絶縁不良が確認され、ケーブルが損傷している可能性があることが分かりました。</p> <p>なお、7号機以外の非常用ディーゼル発電機（A、B）が待機中のため、保安規定に基づく機能要求（プラント停止中は3台のうち2台が動作可能）は満足しています。</p> <p>現在、当該のケーブルの損傷状況および、事象の発生原因を調査中です。</p> <p>※非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ                      非常用ディーゼル発電機の燃料である軽油を、屋外の軽油タンクから原子炉建屋内の軽油タンクへ移送するためのポンプ</p> <p style="text-align: right;">（2020年1月17日にお知らせ済み）</p> <p><b>【対応状況】</b>  <u>電動機基礎埋設部のケーブルに損傷している箇所を確認しました。今後、残る範囲および事象の発生原因について調査を行います。</u></p>

# <参考資料> ケーブル損傷箇所のイメージ図



損傷箇所



ケーブル損傷の状況



(お知らせ)

新潟市内における「東京電力コミュニケーションブース」の開設について

2020年 1月20日

東京電力ホールディングス株式会社  
新潟本社

「東京電力コミュニケーションブース」を、2月7日(金)～2月11日(火)にわたって、  
アピタ新潟西店 1階 南側エスカレーター前に開設いたしますのでお知らせいたします。

以 上

【本件に関するお問い合わせ】  
東京電力ホールディングス株式会社  
新潟本社 渉外・広報部 広報総括グループ 025-283-7461（代表）

## 2019年度第3四半期決算について

2020年1月30日

東京電力ホールディングス株式会社

当社は、本日、2019年度第3四半期（2019年4月1日～12月31日）の連結業績についてとりまとめました。

連結の経常損益は、東京電力グループの販売電力量が前年同期比 2.9%減の 1,647 億 kWh となった一方、燃料費調整制度の期ずれ影響が好転したことや、グループ全社を挙げた継続的なコスト削減などにより、前年同期比 26.5%増の 3,099 億円の利益となりました。

また、特別利益は第2四半期から追加計上はなく、3,672 億円を計上した一方、特別損失に台風 15、19、21 号による減失資産の簿価相当額として財産偶発損 3 億円、東北地方太平洋沖地震により被災した資産の復旧等に要する費用の見積り増や、台風 15、19、21 号により被災した資産の復旧等に要する費用として災害特別損失 274 億円、原子力損害賠償費 819 億円を含む 2,053 億円を計上したことなどから、親会社株主に帰属する四半期純損益は 4,348 億円の利益となりました。

(単位：億円)

	当第3四半期 (A)	前年同期 (B)	比較	
			A-B	A/B (%)
売上高	46,379	45,532	847	101.9
営業損益	2,471	2,604	△ 133	94.9
経常損益	3,099	2,451	648	126.5
特別損益	1,618	△ 1,097	2,716	-
親会社株主に帰属する 四半期純損益	4,348	1,005	3,343	432.6

## 【セグメント別の経常損益】

2019年度第3四半期のセグメント別の経常損益については、以下のとおりです。

- ・東京電力ホールディングス株式会社の経常損益は、東京電力エナジーパートナーへの卸電力販売の減少などにより、前年同期比 306 億円減の 1,483 億円の利益となりました。
- ・東京電力燃料&パワー株式会社の経常損益は、火力発電事業等を承継した JERA において、燃料費調整制度の期ずれ影響が好転したことなどにより、前年同期比 588 億円増の 623 億円の利益となりました。

- ・東京電力パワーグリッド株式会社の経常損益は、修繕費・減価償却費などの減少により、前年同期比 122 億円増の 1,753 億円の利益となりました。
- ・東京電力エナジーパートナー株式会社の経常損益は、東京電力ホールディングスからの購入電力の減少などにより、前年同期比 152 億円増の 546 億円の利益となりました。

(単位：億円)

	当第3四半期 (A)	前年同期 (B)	比較	
			A-B	A/B (%)
経常損益	3,099	2,451	648	126.5
東京電力ホールディングス	1,483	1,789	△ 306	82.9
東京電力フュエル&パワー	623	34	588	-
東京電力パワーグリッド	1,753	1,631	122	107.5
東京電力エナジーパートナー	546	393	152	138.8

以上

【本件に関するお問い合わせ】  
 東京電力ホールディングス株式会社  
 広報室 報道グループ 03-6373-1111 (代表)

# 2019年度第3四半期決算概要

2020年1月30日

東京電力ホールディングス株式会社

## 【2019年度第3四半期決算のポイント】

- **売上高**は、東京電力グループの販売電力量が減少したものの、燃料費調整額の増加などにより**増収**
- **経常損益**は、燃料費調整制度の期ずれ影響が好転したことや、グループ全社を挙げた継続的なコスト削減などにより**増益**
- **経常損益、四半期純損益**はともに**7年連続の黒字**
- **特別損益**は、JERAへの火力発電事業等の承継に伴う持分変動利益、福島第二原子力発電所の廃炉決定による**福島第二廃止損失**、9月～10月の台風による災害特別損失などが発生

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.



## 1. 連結決算の概要

(単位: 億kWh)

	2019年4-12月	2018年4-12月	比較	
			増減	比率(%)
販売電力量(連結)	1,647	1,697	△ 50	97.1

(単位: 億円)

	2019年4-12月	2018年4-12月	比較	
			増減	比率(%)
売上高	46,379	45,532	847	101.9
営業損益	2,471	2,604	△ 133	94.9
経常損益	3,099	2,451	648	126.5
特別利益	3,672	-	3,672	-
特別損失	2,053	1,097	956	-
親会社株主に帰属する 四半期純損益	4,348	1,005	3,343	432.6

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.



## 2. セグメント別のポイント

### 【東京電力ホールディングス】

- 経常損益は、東京電力エナジーパートナーへの卸電力販売の減少などにより**減益**

### 【東京電力フュエル&パワー】

- 経常損益は、火力発電事業等を承継したJERAにおいて、燃料費調整制度の期ずれ影響が好転したことなどにより**増益**

### 【東京電力パワーグリッド】

- 経常損益は、託送収益が減少したものの、修繕費・減価償却費などの減少により**増益**

### 【東京電力エナジーパートナー】

- 経常損益は、東京電力ホールディングスからの購入電力の減少などにより**増益**

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

**TEPCO**

## 3. セグメント別の概要

(単位: 億円)

	2019年4-12月	2018年4-12月	比較	
			増減	比率(%)
売上高	46,379	45,532	847	101.9
東京電力ホールディングス	5,351	5,855	△ 504	91.4
東京電力フュエル&パワー	65	14,542	△ 14,476	0.4
東京電力パワーグリッド	12,882	12,957	△ 74	99.4
東京電力エナジーパートナー	42,122	42,355	△ 233	99.4
調整額	△ 14,041	△ 30,178	16,137	—
経常損益	3,099	2,451	648	126.5
東京電力ホールディングス	1,483	1,789	△ 306	82.9
東京電力フュエル&パワー	623	34	588	—
東京電力パワーグリッド	1,753	1,631	122	107.5
東京電力エナジーパートナー	546	393	152	138.8
調整額	△ 1,307	△ 1,397	90	—

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

**TEPCO** 21

## 4. 連結特別損益

5

(単位: 億円)

	2019年4-12月	2018年4-12月	比較
※1 特別利益	3,672	-	3,672
原賠・廃炉等支援機構資金交付金	540	-	540
災害損失引当金戻入額	1,135	-	1,135
持分変動利益	1,997	-	1,997
※2 特別損失	2,053	1,097	956
財産偶発損	3	-	3
災害特別損失	274	-	274
原子力損害賠償費	819	1,097	△ 278
福島第二廃止損失	956	-	956
特別損益	1,618	△ 1,097	2,716

### ※1 特別利益の概要

- ◆原賠・廃炉等支援機構資金交付金  
2019年9月26日に資金援助額変更申請
- ◆災害損失引当金戻入額  
過去に計上した災害損失引当金のうち、福島第二原子力発電所に係る額を廃炉決定により取崩したもの
- ◆持分変動利益  
JERAへの事業分割承継によるもの

### ※2 特別損失の概要

- ◆財産偶発損(変更)  
台風15、19、21号による減失資産の簿価相当額を計上したもの
- ◆災害特別損失(変更)  
東北地方太平洋沖地震により被災した資産の復旧等に要する費用の見積り増や、台風15、19、21号により被災した資産の復旧等に要する費用を計上したもの
- ◆原子力損害賠償費  
出荷制限指示等による損害や風評被害等の見積り増など
- ◆福島第二廃止損失  
廃炉決定により、設備や核燃料等を損失処理したもの

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

**TEPCO**

## 5. 財産偶発損・災害特別損失について

6

- 2019年9月～10月に発生した台風15号、19号、21号によって被災した資産の復旧等に要する修繕費などを財産偶発損、災害特別損失として計上
- 前期(4-9月期)からの主な増加要因は、19号、21号の発生による他電力からの応援の延長や、水力発電所の設備被害が発生したこと等によるもの

(単位: 億円)

	2019年			
	4-12月期	4-9月期	10-12月期	
財産偶発損	3	0	2	減失した電柱などの資産簿価相当額
災害特別損失	274	118	156	
台風関連合計	173	118	54	
配電設備	62	60	1	主に被災した設備を復旧するための修繕費や、撤去するための除却費用等
送電設備	2	1	1	
水力発電設備	33	-	33	
非常災害対策費等	74	55	18	他電力からの応援に関する費用等
東北地方太平洋沖地震関連	101	※ -	101	2018年度末からの見積り増

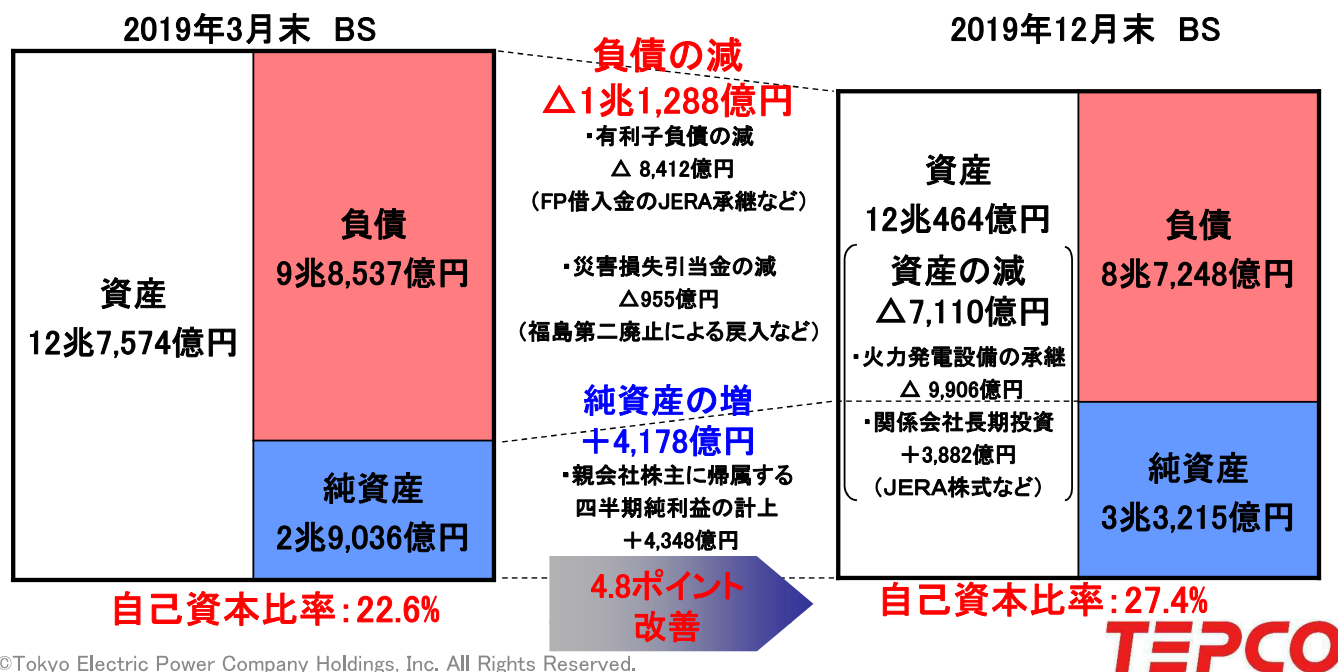
※ 2019年4-9月期は、営業外費用に計上

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

**TEPCO**

22

- 総資産残高は、火力発電設備をJERAへ承継したことなどにより 7,110億円減少
- 負債残高は、FPの借入金をJERAへ承継したことなどにより 1兆1,288億円減少
- 純資産残高は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより、4,178億円増加
- 自己資本比率は、4.8ポイント改善



## (参考) 収支諸元表(実績)

### エリア需要

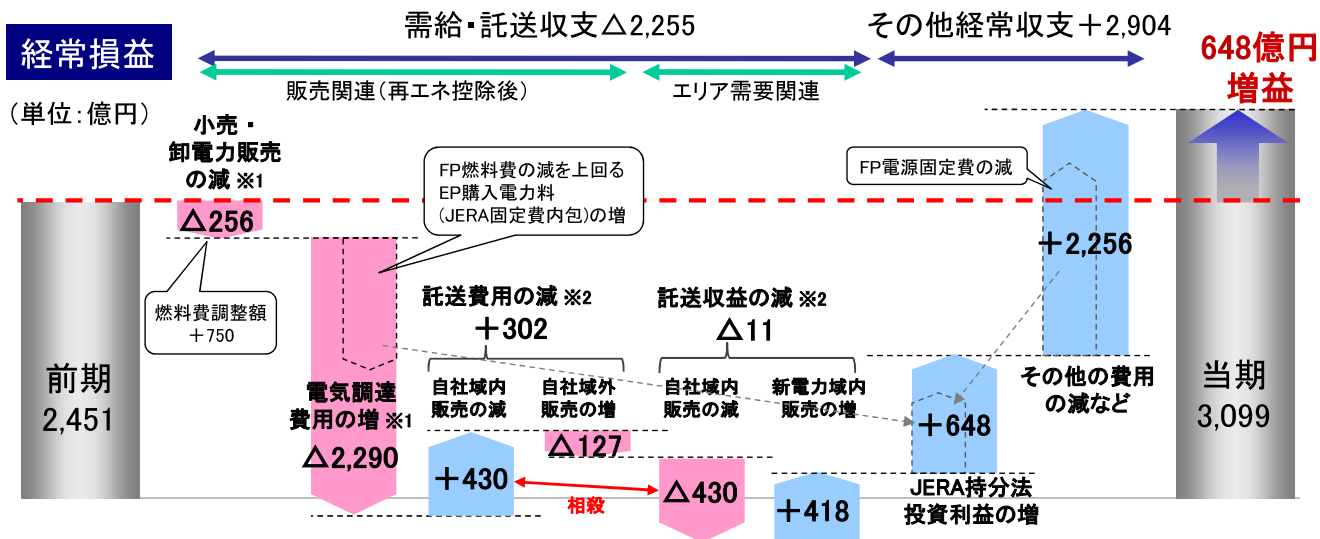
(単位: 億kWh)

	2019年4-12月	2018年4-12月	比較	
			増減	比率(%)
エ リ ア 需 要	1,986	2,014	△28	98.6

### 為替/CIF

	2019年4-12月	2018年4-12月	増減
為替レート(インターバンク)	108.7 円/ドル	111.2 円/ドル	△2.5 円/ドル
原油価格(全日本CIF)	67.8 ドル/バレル	75.1 ドル/バレル	△7.3 ドル/バレル

# (参考) 連結経常損益 ～前年同期からの変動～



	2018年4-12月	2019年4-12月	増減
需給・託送収支	16,428	14,172	$\Delta 2,255$
小売・卸電力販売	33,566	33,309	$\Delta 256$
( $\Delta$ ) 電気調達費用	$\Delta 18,830$	$\Delta 21,120$	$\Delta 2,290$
( $\Delta$ ) 託送費用	$\Delta 8,585$	$\Delta 8,282$	$+302$
託送収益	10,278	10,266	$\Delta 11$
その他経常収支	$\Delta 13,977$	$\Delta 11,072$	$+2,904$

※1 小売・卸電力販売、電気調達費用は間接オークションによる影響を含んでいる  
 ※2 託送費用、託送収益はインバランス収支の影響を除いている

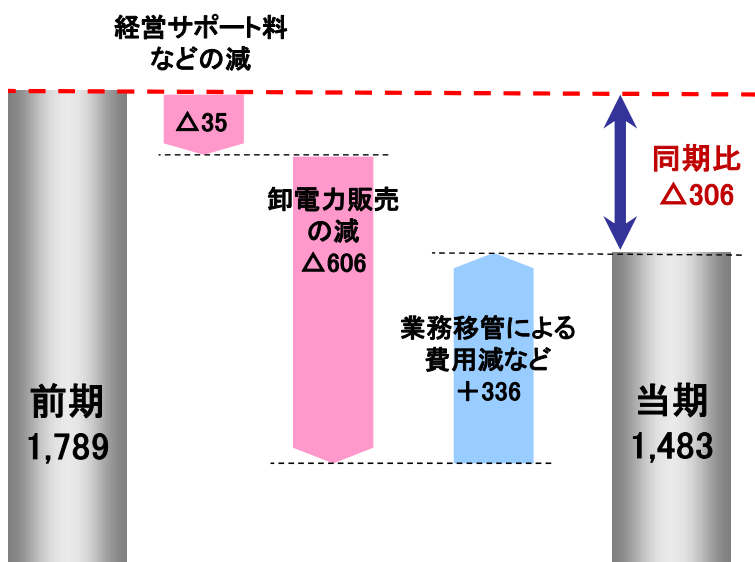
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.



# (参考) HD前年同期比較

## 経常損益

(単位: 億円)



## 収支構造

収益は、配当収入や廃炉等負担金収益、経営サポート料や水力・原子力の卸電力販売など。

## 出水率

(単位: %)

	2018年度	2019年度	増減
4-12月	98.2	104.4	$+6.2$

## 経常損益

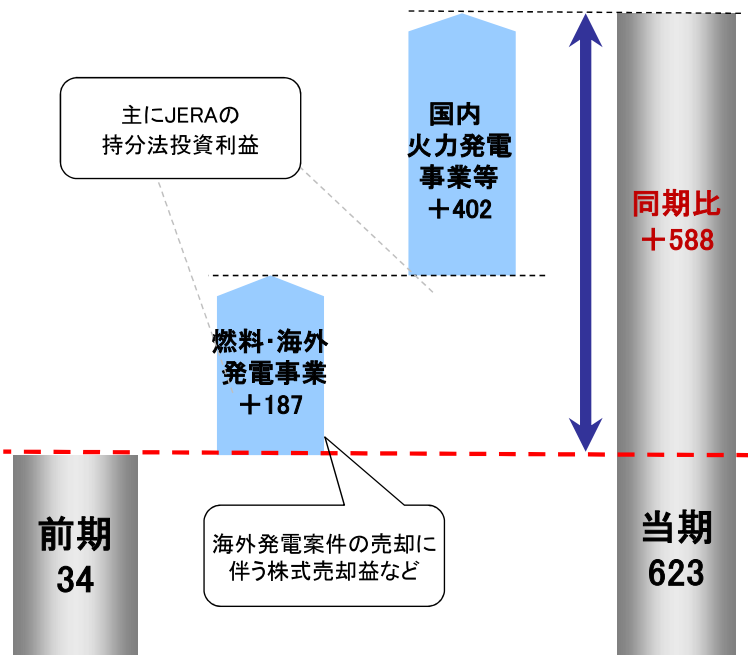
(単位: 億円)

	2018年度	2019年度	増減
4-6月	1,538	1,564	$+25$
4-9月	1,734	1,623	$\Delta 110$
4-12月	1,789	1,483	$\Delta 306$
4-3月	2,327		



経常損益

(単位: 億円)



収支構造

主な利益はJERAの持分法投資利益。  
2019年4月1日に火力発電事業等をJERAへ承継している。

(単位: 億円)

期ずれ影響(JERA持分影響)

	2019年度
4-12月	+370

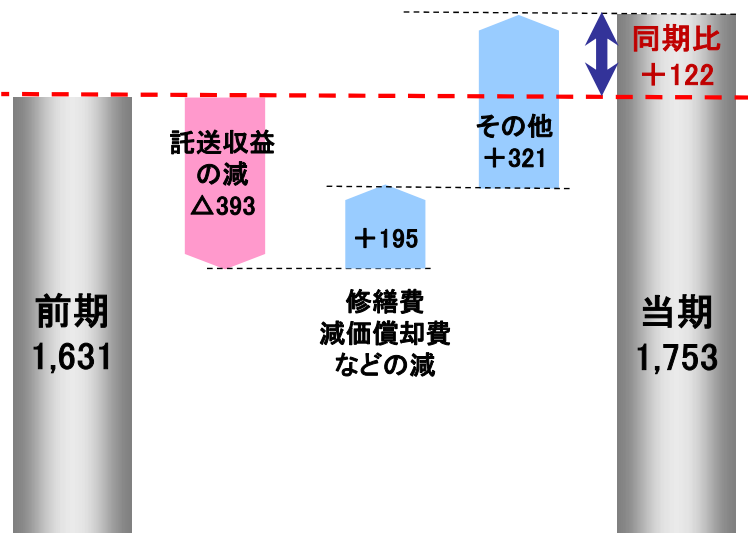
経常損益

(単位: 億円)

	2018年度	2019年度	増減
4-6月	224	458	+233
4-9月	52	584	+532
4-12月	34	623	+588
4-3月	35		

経常損益

(単位: 億円)



収支構造

売上は主に託送収益で、エリア需要によって変動。  
費用は主に送配電設備の修繕費や減価償却費など。

エリア需要

(単位: 億kWh)

	2018年度	2019年度	増減
4-12月	2,014	1,986	$\Delta 28$

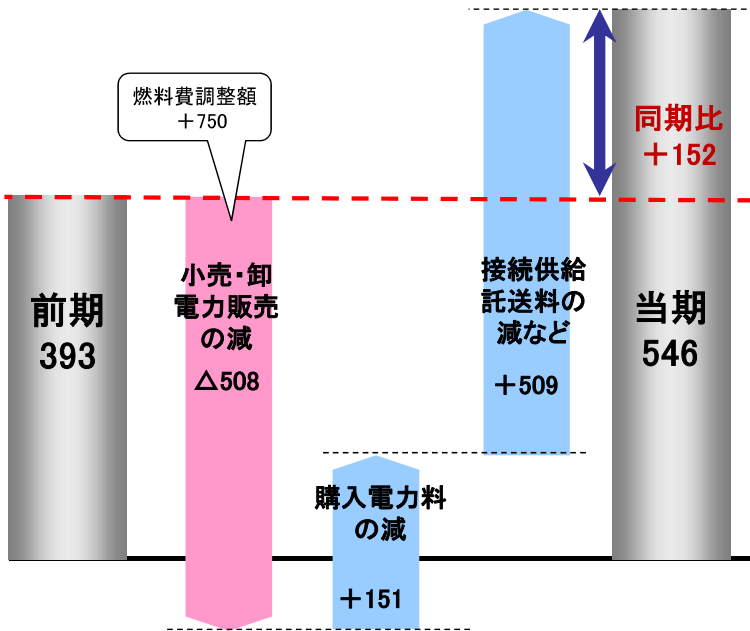
経常損益

(単位: 億円)

	2018年度	2019年度	増減
4-6月	387	426	+38
4-9月	1,170	1,199	+28
4-12月	1,631	1,753	+122
4-3月	1,139		

経常損益

(単位: 億円)



収支構造

売上は主に電気料収入で、販売電力量によって変動。費用は主に購入電力料や接続供給託送料など。

販売電力量

(単位: 億kWh)

	2018年度	2019年度	増減
4-12月	1,697	1,647	△50

ガス件数 (ニチガス、TEA含む)

2019年3月末	2019年12月末
約125万件	約189万件

経常損益

(単位: 億円)

	2018年度	2019年度	増減
4-6月	△83	△120	△36
4-9月	541	434	△107
4-12月	393	546	+152
4-3月	727		